

令和の日本型学校教育の実現に向けた音楽科教育における授業実践
～愛言葉「一人残らず幸せになるために」～

東串良町立東串良中学校 教諭 馬場 美幸

目 次

1	はじめに	1
2	研究主題	1
3	研究主題の理由	1
4	研究の仮説	2
5	研究の方法	2
6	研究の実際	2
7	成果と課題	8
8	おわりに	9

〔引用・参考文献〕

・『中学校学習指導要領解説 音楽編』	文部科学省	平成29年
・『中学生の音楽1』	教育芸術社	令和3年
作詞 杉本 竜一「Forever」P72		
・『音楽の授業づくり』 加藤 徹也・山崎 正彦	明治図書	令和2年
・『教育音楽 中学・高校版』	音楽之友社	令和5年

1 はじめに

数年前、鹿児島県総合教育センターの土曜講座に参加し、Society5.0時代の動画を視聴し衝撃を受けたことを今でも覚えている。近い未来、「こんな社会が本当にやってくるのかな。」と思った。

「音楽に国境はない」、「音楽は人類の共通語である」、「音楽は世界を変えることができる」、そんな言葉が、今年度私の心に残った言葉である。

人工知能AIが進化を遂げているが、どんなに進化しても人間には及ばないところがあると考えられる。人間の強みは、目には見えない心があり、思いがある。感情をもち、それを音楽にのせて表現することができる。そのことを大切に、いつまでも忘れずにいたい。

ICT機器の活用は、よりよい学びを生み出せる可能性を秘めている。生徒たちの学習活動の選択肢を増やすことができ、教師も学習活動を効率的に進めることができる。私自身ICT機器は得意ではないが、ICT支援員の方から実際に学ぶことで、少しずつできるようになっていると実感している。私自身も毎年「アップデートすること」が必要だと感じている。

このような中、音楽の教員としてタブレットは、本物の楽器の音を代用するために活用するというのを忘れず、音楽の本質を見失わないようにしたい。音楽が生まれ、その瞬間に出会う音楽が人の心を打つのだと思う。使うことが目的ではなく、ツール（手段）としてのICTをどのように活用していくのか。令和のスタンダードな学びであると言われているGIGAスクール。学習者が主体となりICT機器を活用しながら自分に合った多様な学び方を探究し、創造していく未来の教室や未来の学校に向けて、生徒たちのウェルビーイングの実現を目指し、よりよい学びを生み出せることを目指したい。そして、将来、生徒が学んだことを生かし、豊かな人生を送ることができると願いたい。

音楽の学びの仕掛けを模索し、生徒たちと共に過ごした日々を思い出しながら、この実践記録をまとめていきたいと思う。

2 研究主題

令和の日本型学校教育の実現に向けた音楽科教育における授業実践
～愛言葉「一人残らず幸せになるために」～

3 主題設定の理由

2021年にGIGAスクール構想がスタートした。中学校学習指導要領解説音楽編には、「生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。」と示されている。授業の中でも、タブレットの使い方について、生徒たちから教えてもらうことがある。ICT活用に関して「一人の100歩より100人の一歩」という言葉を目にした。「やってみる！使ってみる！」の実践から実際に学ぶことが多く、試行錯誤しながらも新たな学びや発見の連続である。

2020年代、生徒たちが生きていく社会は、グローバル化の進展や少子高齢化、技術改新等、ますます予測困難な時代を迎えていくことになる。

このような社会的背景から、中央教育審議会の答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」では、ICTの効果的な活用が求められている。また、SDGsの提唱する「誰一人取り残さない」を目標に掲げ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが求められている。生徒たちには、新学習指導要領で示された資質・能力の育成を図り、多様な変化に対応し、他者と

協働し、新たな価値を生み出していくことが求められている。

本校の学校教育目標は、「学びをいかし、社会の変化に対応できる生徒の育成」である。

音楽科の目標は、豊かな情操を培うことである。音楽は、豊かな心を育むことができる。音や音楽を媒体としたコミュニケーションを図るといふ音楽科の特質があり、音楽教育を通して、生徒たちが幸せになるためにできることを模索し、本研究主題を設定することにした。

4 研究の仮説

- (1) ICT機器を活用した個別最適な学びを行うことで、基礎的な学習の内容の定着が図られ、全ての生徒が主体的に学習に取り組むことができるのではないかと。
- (2) ICT機器を活用した協働的な学びの場を設定することで、多様な考えに触れ、自分の考えを広めたり深めたりすることができ、生徒たちが自らを向上させていこうとする全員参加型の授業ができるのではないかと。
- (3) 教科等横断的な視点で授業を行うことで、興味・関心を高め、他教科で学び得た力が音楽科の中でも生かされるのではないかと。

5 研究の方法

- (1) 仮説1への追究
タブレット（Web上のアプリ）の活用
- (2) 仮説2への追究
タブレットを用いた協働的な活動の工夫
- (3) 仮説3への追究
各教科にみる音楽科からの視点

6 研究の実際

- (1) 仮説1に対する追究
タブレット（アプリ）の活用
見届け問題の実践

昨年度からロイロノート（株式会社 LoiLo）のテスト機能を活用し、作成している。教師用には、正答率や個別の回答も示される。主に、知識の定着を図る際に向いている。音楽を聴いて答える聞き取り問題も取り入れている。通常モードとゲームモードがあり、ゲームモードでも実践してみた。ゲームモードでは、早く、そして正答率の高い上位3位がランキング形式で発表される。「もう1回したい!」、「またやりたい!」という声が多く聞こえ、授業がとても盛り上がった。



【資料1 1年生「春」】



【資料2 2年生「夏の思い出」】



【写真1 テスト機能のゲームモード】

1年 創作〔アプリ Song Maker (Chrome Music Lab) を活用して〕 ♪和音を使った旋律をつくろう♪

【主な学習活動】

- 1 スライドで Song Maker の使い方について説明し、例を示す。
- 2 3分間いろいろ試しながら、操作してみる。
- 3 個人で考える。
- 4 グループで発表し、友達から一言書いてもらう。
- 5 発表する。
- 6 振り返りカードに記入する。



【写真2 和音を使った旋律づくり】
(I I V I V 7 I)

時間を設定し、生徒にいろいろ操作させてみることで、スムーズに活動を進めることができた。記譜や演奏が苦手な生徒にとっては、楽譜への苦手意識も下げることができる。

【写真3 アプリ「音楽チャレンジ」(Roland) の活用】

音符や音楽記号、楽器、リズムなどについて、基礎的な学習の定着を図るのに活用している。空いた時間を利用して取り組み、ゲームを通して楽しく学んでいる。



【写真4 アプリ「KotoRatch」(京都市音楽教育研究会、京都市小学校情報教育研究会) の活用】

1年生「六段の調」の学習で、調弦法の平調子を弾いているところ。私が担任をしている学級では、38人の生徒が在籍している。箏の数が少ないので、アプリを活用し箏の疑似体験をした。実際に、箏に触れる時間も設けた。



【資料3 「六段の調」の学習を通して、生徒がロイロノートでまとめた感想】

♪箏曲「六段の調」のよさ♪

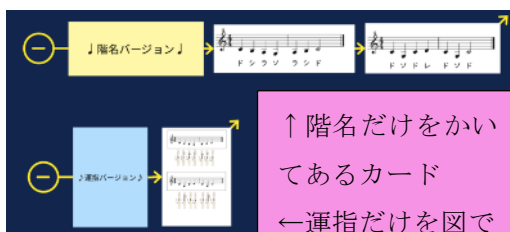
初段から進んでいくほど速くなり、より曲が深いものになっていた。段ごとに、曲のイメージが変わっていった。一つ一つの音に、無駄がなくとても綺麗だった。神秘的だという印象を受けた。

♪箏曲「六段の調」のよさ♪

音を揺らしたり、響かせているところが良かった。低い音から高い音まで出ている感じがすごかった。速さはゆっくりで、箏の音色が聞き取りやすかった。まるでピアノの演奏を聴いている気持ちになった。

タブレットを使って、積極的に感想をまとめる姿が見られた。

「アルトリコーダーの学習」において



↑階名だけをかいてあるカード
←運指だけを図で示してあるカード

【資料4 (1年) 階名バージョンと運指バージョン】

生徒たちに、どちらを選択してもよいことを伝え、練習に取り組みさせた。生徒たちは、短い時間で吹けるようになり、効果的であった。



【写真5 書き込んだもの】

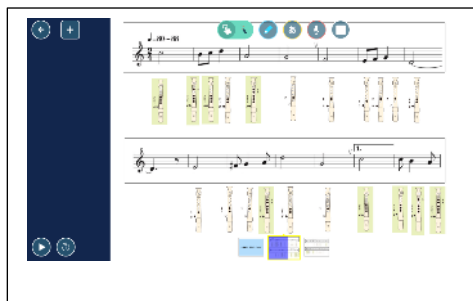
自分で運指バージョンに階名の書き込みをしていた。(3年生の生徒) 一体型へのヒントをもらうことができた。



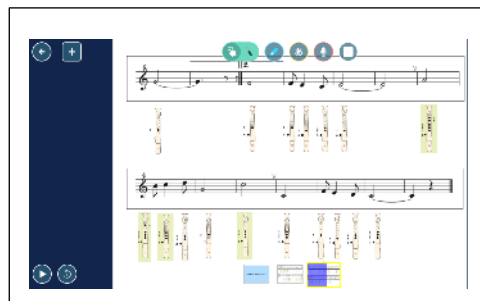
【資料5 一体型】

1年生の「カノン」では、階名と運指の一体型にしたものを、生徒たちに送信した。

3年生の学習において、「威風堂々」の運指バージョンでは、作成する際にカードが2枚になってしまい、画面をタップしながら演奏しないといけないので、困っていた。しかし、生徒が再生ボタンを押してみると、自動で2枚目に進むことができ、新たな発見の場となった。生徒から「先生、ありがとうございます」と、感謝の言葉を伝えられたが、私も知らなかった機能なので、逆に生徒に感謝した。



【資料6 運指表①】



【資料7 運指表②】



【写真6 自分のパートの音源を聴いているところ】

繰り返し聴く生徒や気になるところは、速度を変えて聴いている生徒もいた。タブレット学習の強みだと感じる。

合唱練習の過程を確認しよう。できたら○をつけよう。

	見目	見目	見目	見目
音が聴れるようになった。				
記号を認識して聴えるようになった。				
しっかり声を掛けようになった。				
正しい姿勢で歌えるようになった。				
リズムに合わせて歌えるようになった。				
強弱をつけて歌えるようになった。				
正しく発音できるようになった。				
歌詞の内容が理解できた。				
楽譜を見ないで聴えるようになった。				
感動する合唱づくりができた。				

【資料8 ロイロノートで送った合唱カード】

1年生から3年生まで共通で使用した。

「心のハーモニー」である合唱～音源カードの活用～

自分のパートを聴いてみるように伝えると、男声パートの生徒が「他のパート（アルト）も聞いてみようかな」とつぶやいた。興味をもつことで、他のパートの役割にも目を向ける、大切な気づきがあった。この生徒の気づきを、他の生徒たちにも伝える場を設けた。



【資料9 「夢の世界を」2年生】
ソプラノ・アルト・男声。楽譜の旋律のところに印をつけて生徒に送信した。



【資料10 「夢の世界を」の音源カード】

範唱、ソプラノ、アルト、男声、伴奏音源カードを用いて、生徒たちが自分たちで活動しやすいようにした。



【資料11 楽譜と音源の一体型】
生徒たちが鑑賞する姿から楽譜と音源の一体型にできた。

1年生から3年生に「楽譜のカード」と「音源カード」を全員にロイロノートで送信した。楽譜に印をつけることで、楽譜を読むのが苦手な生徒でも、視覚的に音の動きが捉えやすくなる。音源カードの活用は、個別な学習でも協働的な学習でも用いることができた。文化祭前には、タブレットを活用し、自分たちで練習する姿が見られた。合唱は、「共同作業である」ことを生徒たち全員に伝えた。

(2) 仮説2への追究

タブレットを用いた協働的な活動の工夫



【写真7 パート練習】

音源カードを使い、タブレットを活用して練習を行った。練習の際は、教科書の楽譜でもタブレットの楽譜でもどちらでも選んでよいことを伝えた。

【合唱練習における学習活動の主な流れ】

- CDで範唱を聴く（全体）
- タブレットで自分のパートを聴く（個人）
- タブレットを使ってパート練習（パート）
- ピアノでパート練習（パート）
- ピアノ伴奏に合わせて歌う（全体）

タブレットの音源カードを活用した合唱の練習においては、タブレットばかりではなく、実際にピアノで音取りをすることを心掛けた。実際のピアノの音を通して、音を捉えさせることも重要だと考えている。

【資料12

表現の工夫】



ピンク：どのように歌いたいか
寂しそうにしんみり歌いたい。

水色：どうして
高くなるところやゆっくりとした旋律から。また、強弱記号（デクレシェンドやクレシェンド等）で波のような歌い方になること

などで、より夕方の寂しさを感じさせられた。

「赤とんぼ」の学習において、表現の工夫について考え、書き込み等を行い、グループで交流した。



【写真8 グループ活動】

グループ活動の際には、全員に役割を与えることにしている。そうすることで、一人一人が責任をもち、全員が参加できる授業になると考える。

- A 記録・提出
(ロイロノートの発表カード)
- B 音源・発表
- C 司会



【写真9 共有ノートの活用】

今回初めてロイロノートの共有ノートを活用してみた。意見の交流を行うことで、多様な考えに触れることができ、学びが深まった。



【写真10 タブレットで録画した演奏を見ているところ】

自分たちの演奏を聴いて笑う場面もあった。2回録画したが、練習を行うことで1回目より吹けるようになったことを実感している様子であった。

1回目と2回目の比較は、視覚的・聴覚的にも分かりやすかった。

(3) 仮説3に対する追究

各教科にみる音楽科からの視点

「STEAM教育」。書店でもよくこの言葉を見ることがあり、「なぜ今必要なのか」ということを調べてみた。STEAM教育は、教科等横断的な視点で探究的、問題解決的な学習として、これからますます予測困難な時代を生きる子供たちに必要不可欠であるとして注目されている。

そこで、教材の工夫やワークシート、デジタル教科書の活用を行った。



【写真11 落語鑑賞会】

5月に落語鑑賞会が行われた。三遊亭楽生さんのお父様が東串良町出身ということで、落語を鑑賞する機会があった。鑑賞会が終わってすぐに3年生の授業で「笑点のテーマ」をアルトリコーダーで吹いた。鑑賞会と関連させ、時期を選び教材に取り組んでみた。




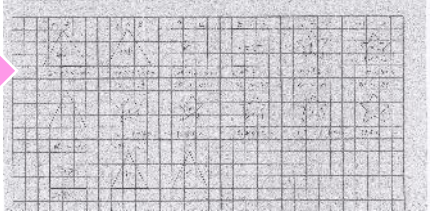
音楽科から考えた教科等横断的な視点としては、以下のようなことが挙げられる。

数学との関連

合唱の設計図



【資料13 「笑点のテーマ」】

【資料14 合唱の設計図作成過程】

<p>前奏・間奏→△かピアノの絵 柔らかな雰囲気やレガートの部分 →○ ハーモニーを重視したい →□ 特徴的な要素や曲想をもつ部分 →◇ 曲の山(サビ) →☆</p>	 <p>【写真12 個人で考えているところ】</p>	 <p>【資料15 生徒が考えた合唱の設計図】</p>
---	---	---

理科との関連

音の高低や呼吸の仕組み

 <p>【写真13 ストロー笛の作成】 「ドレミファソラシド」</p>	 <p>【写真14 呼吸の仕組み 模型を作成】 合唱指導の際に用いた。</p>
---	--

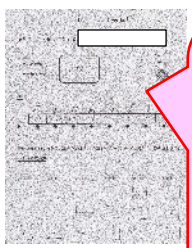


保健体育との関連

表現する(指揮)

家庭との関連

野菜や果物などの言葉を使った創作活動や保育の分野におけるおもちゃづくり

文化祭でも展示した

 <p>【資料16 野菜のリズムアンサンブル】</p>	<p>リズムのもとを個人でつくる。そして、作ったリズムをグループでどのように重ねていくのか話し合い、グループごとに発表した。</p>	 <p>【写真15 文化祭合唱リハーサル】 4年ぶりに文化祭で合唱をすることができた。</p>	 <p>【写真16 生徒製作： 幼児が喜ぶおもちゃ】 中に鈴が入っていて、音が鳴る。文化祭の感想でも、「個性あふれる作品でよかった」と書いてあった。</p>
--	--	--	---

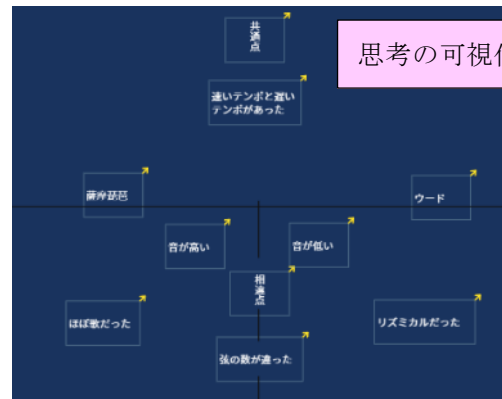
音楽の多様性 *色鮮やかな世界になる*

中学校学習指導要領解説音楽編の音楽科の目標に「曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。」と示されている。



【資料 17 生徒たちの作品】

視覚・聴覚両方に訴える授業づくりを目指している。



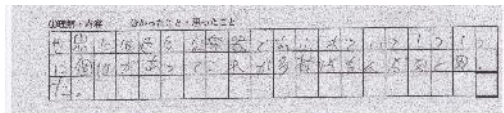
【資料 18 生徒たちの作品】

3年生「世界の諸民族の音楽」の学習で、楽器の共通点と相違点をグループでまとめたもの。いつもは指定したシンキングツールを活用しているが、自分たちで選択させるように実践してみた。他にも、ベン図や PMI/KWL などのシンキングツールを用いていた。それぞれのグループが対話しながら活動できていた。

他教科との関連では、「薩摩琵琶」については、国語科や社会科の平家琵琶や琵琶法師についての学習において関連があった。能で使用される楽器である「小鼓・大鼓」については、美術科で能面について知り、木箱をつくる活動において、能面を彫る生徒もいた。国語科では、「鼓」から舌鼓の言葉の語源についても学習を行っていた。



【写真 17 グループで、ベン図を用いてまとめている様子】



【資料 19 振り返りカード】

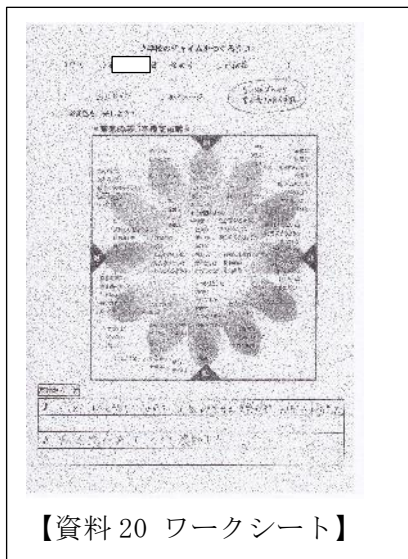
3年 創作（アプリ Scratch を活用して）♪学校のチャイムをつくろう♪

これまで、GarageBand (Apple Japan, Inc) でのギターやピアノ、打楽器等の代用を行って授業を行ってきた。また、Web 上の「バーチャルピアノ」(Musicca) も活用して授業を行ってきた。今年度は、AI テキストマイニング (株式会社ユーザーローカル) や Song Maker, そして、2年越しの思いで、Scratch (株式会社 M. I. T) を活用した授業に挑戦することができた。

【主な学習活動】

- 1 スクラッチの操作の説明をし、教師の例を示す。
- 2 ワークシートに○で囲むことでイメージをもたせる。(誰一人取り残さない。)
- 3 個人で考える。(音の高さのある楽器を選択し、音色の工夫も行う。)
- 4 グループで発表し、グループの友達からよかったところを一言書いてもらう。
- 5 全体で何人か発表する。
- 6 作品をロイロノートで提出する。

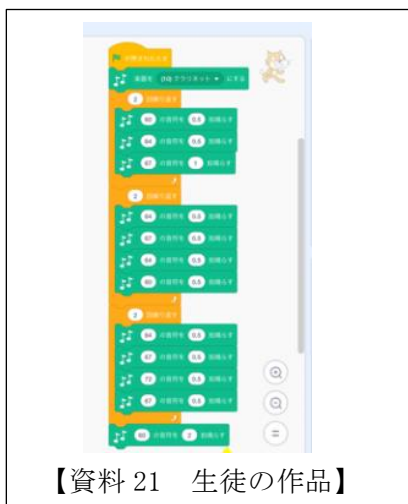
7 振り返りカードに記入する。



【資料 20 ワークシート】

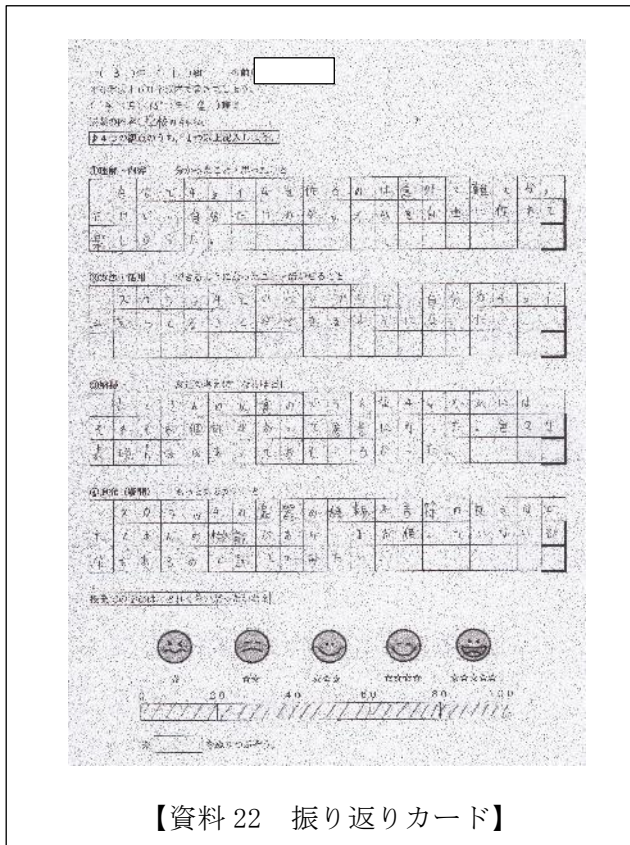


【写真 18 友達から一言書いてもらっているところ】



【資料 21 生徒の作品】

4つの観点のうち
1つ以上書くことを
約束している。



【資料 22 振り返りカード】

7 成果と課題

成果

- (1) 仮説1に対する成果として、タブレットを個別に活用することで、生徒たちが授業に集中して取り組み、学ぼうとする姿勢が見られた。ロイロノートでの見届け問題は、正答率も出るので、学習の定着度も分かり、授業改善へもつながっていった。
- (2) 仮説2に対する成果として、タブレットを効果的に使うことで、他者と協働しながら対話活動を活発に行うことができた。また、多様な考えに触れることができ、お互いを認め合う場にもなった。
- (3) 仮説3に対する成果として、音楽の教科だけでなく、多彩な切り口から授業を行うことで、学ぶことへの動機付けとなり、生徒たちの興味・関心を高めることができた。

- (4) タブレットを効果的に使用することで、一人一人の学びに寄り添うことができ、学び方の幅を広げることができた。他者との対話的な活動を通して、言語活動が活発になり、自分の考えを少しずつ伝え合うことができるようになった。各教科との関連を図り、学んでいくことで、新たな学びを見いだすきっかけになった。

課題

- (1) 仮説1に対する課題として、書くことよりも時間がかかることが多く、入力する時間にも個人差が見られた。またヘッドフォンがないので、一斉に音楽を聴くと集中して聴くことが難しかった。早く課題が終わった生徒への指示も考えながら、今後も授業づくりを行っていく必要がある。
- (2) 仮説2に対する課題として、一台のタブレットの音量にも限界があるので、合唱のパート練習のときには、みんなに音が聞こえにくいことがあった。そのために、練習場所の工夫が必要であると感じた。
- (3) 仮説3に対する課題として、生徒のタブレットの音が鳴らなくなったときの対処法や操作法などについて、自分自身がもっと使いこなせるように学んでいく必要がある。主体的な学びを支援する伴走者として、学習者主体の授業づくりを行うためには、入念な準備が必要である。

8 おわりに

今年度、生徒たちと一緒に取り組んだ合唱曲「Forever」より「季節をいくつも重ねて 飛び立つそのときすべて輝いてること Forever 信じて」(杉本竜一作詞「Forever」より引用)。私は、この学校での卒業証書を手にする日まで、音楽を謙虚に学び続けたい。そして、授業で勝負できる教員になりたいと強く思った。一番困っているかもしれない生徒を中心に授業を考え、誰もが幸せになるために、日々試行錯誤している。目の前に生徒たちがいるので、「教育」ができる。「共育」であることも忘れてはいけない。この4年間で「最幸」だったと思えるように。令和を生きる子供たちの学びを止めることなく、豊かで幸せな風が吹くことを願って。



【写真 19】
1年生「Forever」】



【写真 20】
2年生「夢の世界を】



【写真 21】
3年生「旅立ちの日に】

♪文化祭では、各学年「愛のある合唱」ができた♪